

気象変動に対応した稲づくりは、健苗育成から!!

気象変動に対応した稲づくりは、健苗育成から始まります。育苗管理を徹底して根張りの良い良質苗づくりに努めましょう。穂肥のできる稲を目指して、良質茎を早期に確保し、出穂1か月前までに中干しを完了させ、生育調整と根の健全化を図りましょう。

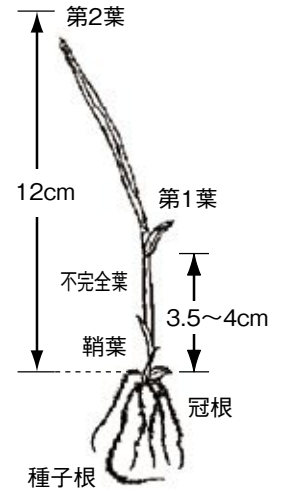
1 育苗ハウス管理の徹底で健苗育成を!

春先が低温ですと田植え後の活着や分けつ発生の良否は苗質が大きく関係します。育苗段階別の温度管理や生育目標を参考に、草丈12cm程度の稚苗に育てましょう。

(1) 稚苗育苗のハウス管理

○育苗段階別の温度管理

育苗段階	終了段階の苗の生育		温度管理 (°C)		処理日数 (日)
			昼間	夜間	
育苗段階	出芽長	0.5~1cm	30	30	2~3
出芽期	第1葉鞘長	3.5cm	20~25	15~18	2~4
硬化期	草丈	12cm	15~20	10以上	12~13



稚苗の目標苗姿

- ・残雪の中のハウス育苗は、晴天時の日中は太陽光で高温、夜間は冷気による低温になります。日中の高温と、夜間の低温が繰り返されるので、こまめなハウス換気やすきま風対策、ストーブによる加温等でハウス内の温度変化を抑えましょう。
- ・今年は消雪遅れから低温による緑化不良・病害の発生、あるいは一時的な高温による苗焼け等の障害が心配されます。育苗箱上に温度計を入れ、細心の注意を払い、こまめな管理に努めましょう。
- ・4月下旬以降の遅い育苗では、日射量が多くなるために高温による苗焼けや換気不足による徒長が心配されます。そこで出芽・緑化期の育苗箱被覆資材を遮光率の高いものにするとともに、ハウスのこまめな温度管理・水管理に努めましょう。
- ・硬化期は、気温が高くなり蒸散が多くなるため、一日一回の灌水では水が不足する場合がありますので、床土の乾燥具合を観察しながら灌水してください。

(2) 稚苗の生育目標

苗の種類	育苗日数 (日)	草丈 (cm)	葉数 (葉)	第1葉鞘長 (cm)
稚苗	18	育苗段階	2.0	3.5~4.0

(3) 移植前追肥 (弁当肥) で移植後の活着促進

移植前4~5日 (1.8葉期) 頃に窒素成分で1箱当たり約1~2gを追肥し、苗の活力を高めましょう。追肥後は速やかに灌水し肥やけを防止しましょう。

ただし、軟弱・徒長苗では障害が発生する場合がありますので追肥は控えましょう。また、日中気温が高い時間帯の追肥は、肥やけを起こすので避けましょう。

2 深耕や土づくりで根域の確保と物理性の改善を!

耕深 (作土深) は15cmを最終目標とし、根域確保に努めましょう。耕深が目標値未満の場合は一度に深くせず毎年1~2cmずつ耕深を深めてください。また、下層に石層がある場合は加減しましょう。

堆肥や土づくり資材の施用で、土壌の物理性、化学性の改善に努めましょう。

3 中干しにつなげる適期茎数確保を!

中干し・溝切りは、茎数の調節だけでなく、秋のコンバイン作業にも大きく影響する重要な作業です。中干しが出穂1か月前までにきちんと完了できるよう、極端な疎植を避け、地域や栽培形態にあった栽植密度で移植し、計画的に茎数を確保して中干しに入りましょう。

4 地力やほ場条件にあった基肥量で穂肥ができる稲姿を!

穂肥ができる稲づくりのための基肥量は、適正茎数が確保でき、出穂1か月前に残らない程度の量が理想です。お米通信簿のタンパク質含有率の数値や、ほ場条件・地力を考慮して基肥量を調整しましょう。

5 適期田植えの徹底を!

コシヒカリの田植えは5月中旬以降とし、早い出穂で登熟期間が高温期に重ならないようにしましょう。消雪の遅い地区は、雪解けを加味して播種や田植え作業の計画を立てましょう。

春作業を安全に行っていただくために

近年、高齢者による農作業中の事故が目立つことから、農作業事故の未然防止を推進しています。作業者の少しの油断・気の弛みが大きな事故につながります。これから始まる春作業に向け、事前点検と安全作業の徹底をお願いします。

トラクター作業中の事故例



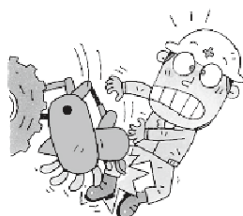
安全フレームは転倒時の安全領域を確保し、シートベルトは作業者が投げ出されるのを防ぎます



道路走行前にはブレーキの左右連結を確認して下さい。



高速走行時に片ブレーキになると、ハンドルを取られて転落事故につながります。



作業機の落下は重大事故につながりますので、作業機の点検時は必ず昇降装置の固定をして下さい。

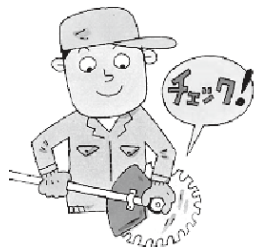


点検でエンジンや回転部に触れるときは、エンジンを止める習慣をつけましょう

刈払機作業中の事故例



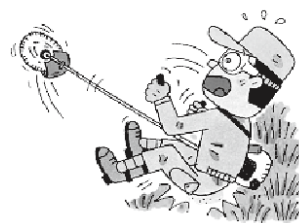
肌の露出は避け、手足を防護し、特に防護メガネは必ず着用しましょう。



飛散防護カバーは石等の飛散を防ぐために有効です。指定の位置に正しく取り付けましょう。

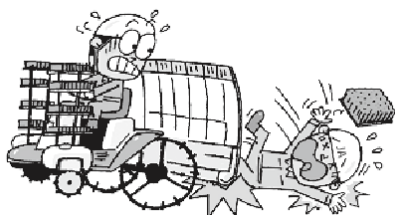


詰まった草などを取り除く時に怪我をするケースが頻発しています。必ずエンジンを止めてから取り除くようにしてください。

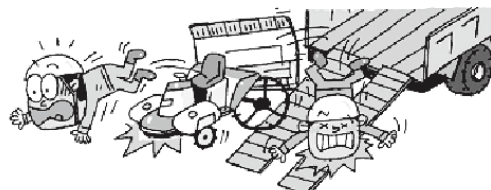


転倒時に怪我をするケースが多いので、足元の注意、保護具の装着を忘れないで下さい。また、安全装置の付いた刈払機を使用することも効果的です。

田植機作業中の事故例



補給者に合図をしないで急に、発進すると補助者と接触事故を起こすおそれがあります。



あゆみ板の上でクラッチ操作、変速操作をおこなうと、機械が急に下がるおそれがあります。

機械 農業機械の事故・故障・修理は…JA北魚沼各農機センターまで

ケガ 農業労災にご加入の方は…JA北魚沼営農経済部営農企画課まで TEL:025-793-1770